

す < す < 通 信 第2号

「無洗米JAなす南栃木県産こしひかり新登場記念 田植え泥んこキャンペーン」に当選された皆様に、5月28日（土）に田植え体験をして頂きました、栃木県那須烏山市（JAなす南）の「田んぼ」の様子をご紹介します！（田植え後65日目様子です）



8月に入り長い梅雨が明け、いよいよ夏本番！雨が続き少し心配でしたが、稲は順調に生長中です。草丈は80cmを超え、葉の色も徐々に変化してきました♪

ここまで生長してくると、やがて稲穂が出現します。でもみなさん、この稲穂がどのように顔を出すかご存知でしょうか？



左の写真をご覧ください。

茎（くき）の中に小さく白い穂が！これを幼穂（ようすい・穂の赤ちゃん）といいます。幼穂は茎の根本で育ち始め、茎の中で生長し1ヶ月ほどで出穂（しゅっすい・茎から穂が出ること）します。田んぼの中に稲穂が顔をのぞかせると、いよいよ収穫が近づいてきます♪



梅雨が明けて、晴れていると思ったら・・・みるみる雲が広がり、急にこんな天気。

実は栃木県、雷が非常に多いことで有名で、「雷都」と呼ばれています。地理的に雷が非常に発生しやすい栃木。ただ、この雷を伴った夕立は大気の温度を下げ、昼夜の気温差を作り出します。この気温差は、美味しいとちぎ米を作る一つの要素になります♪